I-22

祭礼行事の継承による歴史まちづくりの可能性に関する研究

A study on the possibility of historical town planning by the festival event of inheritance

○市ノ川貴之 [1], 田所辰之助 [2]

*Takayuki Ichinokawa[1],Shinnosuke Tadokoro[2]

Contemporary in Japan, aspects of the city in order to respond to the diverse and complex societies are constantly changing. However, that which corresponds to the urban structure of things like cityscape, neighborhood that has been handed down from ancient times is required in modern life is difficult, it is not completely accept the change.

The theme of this study is thinking about what inheritance of the festival events and its nestled is acting how to the formation of the cityscape. So focusing on the festival events there and the town planning method of the city that are touristy by the improvement of historical value, by performing the design proposal due to the difference of space utilization in daily and non-daily, and the re-evaluation of traditional architecture the verification of the future of the act of preservation.

１章　序論

1.1　研究背景

現代の日本において，多様化・複雑化した社会に対応するためにまちの様相は常に変化し続けている．しかし，古くから受け継がれている街並み・界隈といったものが現代の生活に要求される都市構造に継承されることは難しく，その変化を受け止めきれずにいる．その中で伝統的な街並みをもとに観光地として賑わいを生み出そうとしている地域が多くあるが，テーマパークのような印象を受ける地域も少なくはない．

要因の一つとして，伝統的建造物の保存はその建築の歴史的価値に視点が集中してしまいがちで，計画的視点や現代の生活での活用法を考えるよりただ「残す」という意味での保存が先行しているからではないか．その結果，建物を保存・修復することで観光地化を推進し賑わいの創出には繋がっているものの，地域住民との間でまち全体の利用のされ方のギャップが生じ，小さな問題が積み重なっている．

1.2　研究目的

本研究では地域の祭礼行事の継承及びそのしつらえが街並みの形成に対しどのように作用しているのかについて考察する．歴史的価値の向上により観光地化されている町並みのまちづくり手法とそこでの祭礼行事に着目し，日常と非日常における空間利用の差異を用いた設計提案を行うことで，伝統建築の再評価とこれからの保存・活用に対する検証をする．

1.3　既往研究

歴史的街並みに関する既往研究は，1) 建物の特徴から保存・修復の手法を述べるもの，2) 空地や空き家問題に対するもの，3) イベント型観光の可能性について言及するなど，現状の町並みの資源の利活用や賑わいの創出に対するものがほとんどであり，その後の賑わいの制御について同時に述べているものは見られない．町並みとして観光事業を展開していくことを考えたときに．その後の賑わいによって地域住民の生活がどのように変化していくのかを同時に考えていくことが必要であると考える．つまり，観光地化のステップとして第一の局面は観光スポットとして現状のまちにある資源をどのように活用し，賑わいを生み出すかを構想することであり，既往研究のほとんどはこの段階に留まっている．本研究では第二の局面として考えられる「観光地化されたその後のまち」に対し，賑わい制御のシステムを含む建築の提案を行う．

２章　建築の保存行為

2.1　保存行為の基本理念

田原幸夫氏がその著書の中で「現代の建築保存において基本とすべき理念は「当初への復元」でも「過去の模倣」でもなく「各時代の創造行為に対しての敬意」を示すことである．」[*1] と記しているように過去の成果物に対して模倣や復元を目的とするのではなく，時代において何が必要とされどのようなデザインによってそれを解決しようとしたのかを読み解くことこそが保存行為の第一歩であると言える．つまり建築の保存行為とは，流れる時代の中で積み重ねてきた歴史の正確な読み取りの元で「新しい環境」を作ることであると考える．

2.2　創造行為としての保存・再生

建築家・大江匡の論考の中に，「建築の保存と再生を創造行為として行うことは，既存の建築に社会の中に存在する時感（≠時間）を封印することである」[*2] という一節がある．時感とは人々が時の流れをどう感じるかということである．また，「時の流れの感じ方は人，世代あるいは地域によって全く違うことがあるが，これを強制的に同居させようというのが現代の都市状況である」と大江匡は提唱している．つまり都市における保存とは，その都市に存在する多様で複雑な時感を正確に読み取ることで都市の文脈を解釈し，時感の層を一体化させることであると言えるだろう。

そこで，都市の文脈を時感という概念に置き換える際に重要となるのが，各時感の層をどのように定義し，分類するのかということであると考える．日本語の文章を例にとると，ひらがな・カタカナ・漢字・アルファベットの４つの時感が混在している．これらがそれぞれ独立しながら相互に関連性を有しているから読みやすい文章が得られるとするなら，都市における相互関係を有する時感の定義とはどこにあるのだろうか．これが都市の文脈における重要な視点であると捉える．

３章　歴史まちづくり

3.1　事例研究

日本で行われている歴史的まちづくりにおける事例を示し，特徴ごとに表１のように分類する．これらからまちづくりにおける指標となるものの読み取りを試み，本研究へ反映できる部分があるかこ検討する．

今回は分類した事例の中でも４つ目の「地域の祭事や行事などによる文化的なつながりを継承」について言及することとする．

1. 日大理工・学部・建築 2. 日大理工・教員・建築

表１　歴史まちづくり事例 *3

分類		地域	市政動向	伝統的建造物群保存地区　選定地区 有無	事例
特徴的な都市構造を活かす	城下町	滋賀県彦根市	2007年「彦根市景観計画」策定 2009年「彦根市歴史的風致維持向上計画」認定		堀で区分された都市構造を活かす
	城下町 茶屋町 寺町	石川県金沢市	2009年「金沢市景観計画」策定 2009年「金沢市歴史的風致維持向上計画」認定	2001年　金沢市東山ひがし　選定 2008年　金沢市主計町　選定 2011年　金沢市卯辰山麓　選定 2012年　金沢市寺町台　選定	外堀・武家地・町人地などの特性を活かす
	門前町	滋賀県長浜市　大通寺門前地区	1984年「博物館都市構想」策定 2008年「長浜市景観まちづくり計画」策定 2010年「長浜市歴史的風致維持向上計画」認定		参道空間の歴史まちづくり
	宿場町	三重県亀山市　関宿	2009年「亀山市歴史的風致維持向上計画」認定 2011年「亀山市景観計画」策定	1984年　亀山市関宿　選定	街道を軸とした歴史まちづくり
	川湊町	千葉県香取市　佐原地区	1994年「佐原市歴史的景観条例」制定	1996年　香取市佐原　選定	小野川を軸とした歴史まちづくり
ランドマークやシンボルの修復・復元		岡山県岡山市	2007年「岡山市景観計画」策定		後楽園の借景となる背景地区の保全
	商家町	岡山県倉敷市	2010年「倉敷市景観計画」策定	1979年　倉敷市倉敷川畔　選定	倉敷川畔伝統的建造物群保存地区の背景の保全
	宿場町	熊本県山鹿市	2007年「山鹿市景観計画」策定		八千代座の修復と活用
		福島県桑折市	2016年「桑折市歴史的風致維持向上計画」認定		桑折御蔵の修復・活用
歴史まちづくりの資源となる要素の維持・保全・再生	商家町	奈良県宇陀市　松山地区		2006年　宇陀市松山　選定	修理修景基準による伝統的街並みの保全
		岐阜県飛騨市　古川地区			「相場」に基づく伝統的街並みの形成
	商家町	山口県柳井市	2012年「柳井市景観計画」策定	1984年　柳井市古市金屋　選定	伝統行事の舞台となる柳井川の護岸の新設
	門前町	三重県伊勢市	2009年「伊勢市景観計画」策定		歴史的街並みに調和した参道整備
地域の祭事や行事などによる文化的なつながりを継承	商家町	岐阜県高山市	2006年「高山市景観計画」策定 2009年「高山市歴史的風致維持向上計画」認定	1979年　高山市三町　選定 2004年　高山市下二之町大新町　選定	高山祭
	城下町	埼玉県川越市	2007年「萩市景観計画」策定 2009年「萩市歴史的風致維持向上計画」認定	1976年　萩市堀内地区　選定 1976年　萩市平安古地区　選定 2001年　萩市浜崎　選定 2010年　萩市佐々並市　選定	萩まちじゅう博物館の取り組み
	坊群・門前	滋賀県大津市	2004年「古都大津の風格ある景観をつくる基本計画」策定 2006年「古都保存法に基づく歴史的風土特別保存地区」決定	1997年　大津市坂本　選定	大津祭
	城下町	滋賀県日野町	2009年「沿道景観形成地区」指定		日野祭

3.2　祭りのしつらえ

地域の祭りとそこに形成される町並みとの間で，祭礼時にしつらえに変化を持たすものや仮設的なものを設置するなどして日常との差異を生み出しているものを「祭りのしつらえ」と定義し，転用の可能性を探る．今回は大津祭り・日野祭り・川越祭りの三つについて取り上げる．

3.2.2　大津祭のしつらえ

大津祭りでは主に一階と二階での通りに対するしつらえに変化をもたせている．一階は「通りから見せる」ために提灯や幔幕通りと一体となる飾り付けをし，見える室には屏風をあつらえるなどしている．二階では「通りを楽しむ・もてなす」ために開口部の建具を外し中から通りを見ることで曳行する山車を楽しむあるいは神様をもてなすという意味合いが強くなる．

fig. 1　大津祭り

3.2.3　日野祭りのしつらえ

日野祭りでは桟敷窓というしつらえによって通りとの間に半外部空間を挿入し，祭りを楽しむ工夫が見られる．日常的にはこの空間は外に開かれることはないが，祭りの期間のみ通りに向けて窓が開かれることで非日常の祭礼空間を演出している．

fig. 2　日野祭り

3.2.4　川越祭りのしつらえ

川越祭りでは軒端揃えというしつらえによって通りに対して町並みの一体感を生み出そうとしている．さらに，祭りの特徴として山車と，建物と建物の間のスペースに仮設の舞台やテントの設営の二つを挙げる．川越祭りの最大の見せ場は町中を曳行する山車である．山車は総数 29 台あるが年によって山車を出さない町内会もある．そういったときは家と家・店と店の間にある，日常では駐車場や広場として利用されている空地に祭囃子を演奏する舞台を設営している．軒端揃えはそういった仮設的なものが町並みに溶け込むための役割も果たしていると言える．

fig. 3 川越祭り

3.3　比較考察

三つの事例の違いとして，大津祭りは通りに対して一階と二階でのしつらえを変えている．つまり断面的に通りとの関わり方を変えることで祭礼空間を演出しようとしている．対して日野祭りでは桟敷窓によって通りに対して平面的な階層性を与えている．つまり断面ではなくあくまで平面的な広がりのみで祭礼空間との関わり方を演出していると言える．最後に川越祭りでは軒端揃えによって通りに対して町並み全体を一体化させようとしている．つまり，線あるいは面的なつながりを町並み全体として生み出していると言える．

４章　結論及び今後の展望

ここまで建築の保存に対する捉え方や歴史まちづくりの指標となりうるものを取り上げてきたが，その町並みの歴史的文脈の解釈としての時感の概念と，地域の祭礼行事には密接な関係性があるだろう．年に一回の祭りのしつらえ，そしてそれに対する地域住民の姿勢は，文字通りの歴史性を含む時感を持っている．しかしそれだけではなく，当事者のみの時感も存在すると考える．それが地域のつながりとなり，今日の町並み形成の根源となっている．今後は，それらを更新していくための新たなしつらえや時感の捉え方を持つ空間のあり方について検討していく．

【注釈】

*1 田原幸夫『建築の保存デザイン　豊かに使い続けるための理念と実践』　学芸出版社　2003　p. 77 より引用

*2 大江匡　「創造行為としての保存・再生」『[建築設計資料] 45　保存・再生　まちづくりの核を仕組む創造行為』建築思潮研究所　建築資料研究社　1994　p. 95 より引用

*3 本表は国土交通省国土技術政策総合研究所資料「歴史まちづくりの手引き」及び国土交通省「景観まちづくり」「歴史まちづくり」をもとに作成した。

*4 岩間香 / 西岡陽子　編集　『祭りのしつらい−町家とまち並み−』　思文閣出版　2008　一部引用

【参考文献】

1) 田原幸夫『建築の保存デザイン　豊かに使い続けるための理念と実践』　学芸出版社　2003

2) 建築思潮研究所『[建築設計資料] 45　保存・再生　まちづくりの核を仕組む創造行為』　建築資料研究社　1994

3) 国土交通省国土技術政策総合研究所資料　「歴史まちづくりの手引き」「景観まちづくり」「歴史まちづくり」

4) 岩間香 / 西岡陽子　編集　『祭りのしつらい−町家とまち並み−』　思文閣出版　2008

5) 建築とまちなみ景観編集委員会編著　『建築とまちなみ景観』　株式会社ぎょうせい 2005